古典探究　学習指導案（　３時間目 / ４時間中）

科目名	古典探究	単元名	理科的な視点を取り入れて古典を探究しよう～「地震」を題材にして（読むこと）
本時の目標	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。		
本時で取り上げる主な言語活動	「地震」に関わる複数の古典の作品を読み比べ、地震に対する当時のものの見方や考え方についてまとめる。		
教　材	方丈記「大地震」、平家物語「大地震」、吾妻鏡	実施対象	第２学年

本時における評価の観点、評価規準、評価方法	本時の評価の観点	本時の評価規準	本時の評価方法
	知識・技能	・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。	記述の分析（ワークシートの分析）
	思・判・表 読むこと	・「読むこと」において設定した題材に関連する複数の作品の読み取りを基に、自分のものの見方感じ方、考え方を深めている。	記述の分析（ワークシートの分析）

学習活動（言語活動）	指導上の留意点	評価の実際
導入（５分） ・前時の内容、探究課題の確認	・前時でそれぞれのグループで各作品における地震に対するものの見方や考え方を読み取ったり、調べたりしたことを確認する。 ・本時の目標（探究課題）を確認する。	
探究課題：鎌倉時代の人々は地震が起きた原因をどのように捉えていたのか。		
展開（５０分） ① ペアで考察した内容をグループ内で共有する。 ② 各グループの内容を全体共有をする。 ③ 3作品のそれぞれの違いを把握し、何が分かるのか考察する	展開Ⅰ ・ペアで行ったそれぞれの作品についての考察についてグループ内で共有する。 ・各グループが記入したスプレッドシートを確認し、教師がいくつかの記述を取り上げ、説明させる。 ・平家物語、吾妻鏡では地震の理由を「平家の怨霊」「政治的不和」などに求めている。しかし、鴨長明はそういったことに一切触れずに地震が恐ろしいものであることだけを述べている。このような書きぶりの違いに着目させる。	【知識・技能】 【思考・判断・表現】読むこと「記述の分析」

平家の栄華と滅亡を描く平家物語のなかで、地震が起きたことを述べるのはストーリー展開上本筋のものではない。しかし、1185 年春に壇ノ浦の戦いで平家が滅亡し、その年の７月に大きな地震が起きていることに、つながりを見いだしたのではないか。
歴史書に地震の原因を怨霊等と述べていることから、当時の人々は自然の驚異に対して、非科学的な理由付けをすることで、不条理をどうにか理解しようとしており、それが一般的な考えであったと考える。
これらに対し、鴨長明は随筆という自由な記述が可能な作品形態のなか、そうした世の風潮にはふれず、地震が恐ろしいものとだけ述べているのも、淡々と地震の被害を述べることで、かえって世の中すべてが無常である、という、強いむなしさを強調したのではないか。

まとめ（１０分） ・グループでの検討を基に、3つ作品の違いから考えられることをまとめる【個人学習】	・3つの作品の違いを個人でワークシートにまとめる。 ・次回、現代に生きる我々との相違点及び共通点考えることを予告する。	